

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・観察実験などの体験的授業に ICT 機器の活用を加え、体験的&視覚的に授業を行ったことにより、単なる知識の習得のような短期記憶とせず、長期記憶として知識や技能の定着を図れた。
- ・ICT 機器を活用し授業の導入を工夫することにより、主体的に学習する態度を育めた。
- ・実験結果の考察において、自分の考えを実験結果に基づいた根拠をもとに述べる力が育めた。

(2) 課題

- ・知識の習得において、重要語句の習得に課題があり、分野別では特に生物分野における重要語句の習得に課題がある。
- ・成果の3項目目について、実験結果に基づくことが難しい児童もいる(自分の考えは述べることができる)

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率(経年比較)

(以下、知識・技能は「知技」、思考・判断・表現は「思判表」、主体的に学習に取り組む態度は「主体的」とする。)

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	・校内平均正答率は、区平均、全国平均、目標値を下回っている。 ・基礎、活用ともに目標値を下回っている。 ・領域別では、ほとんどの領域で全国平均、目標値程度、もしくは下回っている。 ・観点別に見てみると、「知技」も「思判表」においても全国平均より同程度から下、目標値と同程度もしくは下回っている。		
第5学年	・校内平均正答率は、区平均、全国平均よりやや上回り、目標値と同程度であった。 ・基礎は目標値と同程度、活用は、目標値を上回った。 ・領域別に見てみると、物質・エネルギーの一部の内容で、全国平均や目標値より大きく下回った。(電気のはたらき) ・観点別に見てみると、「知技」も「思判表」において全国平均より同程度からやや上、目標値前後であった。	・校内平均正答率は、区平均、全国平均とほとんど変わらなかったが、目標値より下回った。 ・基礎、活用ともに、目標値を下回った。 ・領域別に見てみると、物質・エネルギーについては、全国平均とほとんど変わらないが目標値より下回った。生命・地球については、全国平均、目標値より下回った。 ・観点別に見てみると、すべて目標値より下回っているが、「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」については、区平均、	

		全国平均よりも上回っていた。	
第6学年	・校内平均正答率は、区平均、全国平均、目標値よりも大きく上回っている。 ・基礎、活用は区平均、全国平均、目標値より大きく上回っている。 ・領域別では物質・エネルギー領域は区平均、全国平均、目標値において大きく上回っている。生命・地球領域では区平均、全国平均、目標値の同程度からやや上となった。 ・観点別では「知技」および「思判表」で大きく上回っている。	・校内平均正答率は、区平均と全国平均より上回っているが、目標値とは同じポイントであった。 ・基礎、活用は区平均と全国平均より上回っているが、目標値とは同じポイントであった。 ・領域別では物質・エネルギー領域は区平均、全国平均ともに上回っているが、目標値からは0.1ポイント下回った。生命・地球領域では区平均、全国平均、目標値のすべてを上回っている。 ・観点別では「知技」および「主体的」はすべてにおいて上回っている。「思判表」は区平均、全国平均を上回り、目標値からは0.3ポイント下回った。	・校内平均正答率は、目標、区平均、全国平均より上回った。 ・基礎、活用ともに目標値、区平均を上回った。 ・領域別に見てみると、物質・エネルギー、生命・地球領域、領域ともに、目標値、区平均値、全国平均より上回った。 ・観点別に見てみると、「思考・判断・表現」は、目標値、区平均、全国平均より上回っていた。「主体的に取り組む態度」については目標値と同じであった。

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・「こん虫のからだのつくり」についての知識・技能は身につけている。 ・虫眼鏡、方位磁針、電子てんびん等、観察・実験に使う用具の使い方が身につけていない。 ・基礎的基本的な知識・技能は全体的に身につけていない。	・自分なりに根拠のある予想や仮説を立てることができる児童が多い。 ・観察・実験の結果から推測・分析する力が十分でない。	・児童が実験や観察に、興味・関心をもって取り組むことができる。 ・実験結果や観察結果からわかることや気づいたことを記述する場面では、考えをまとめることができる児童とできない児童に差がある。 ・学んだことを自然の事物・現象や日常生活に当てはめようとする力が不十分。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・全体的に定着している内容が多いが、重要語句を記述するような問題はやや難しさがある。 (例) めしべに花粉がつくことを何というか？→「受粉」	・根拠のある予想や仮説をもとに実験の計画を立てることはできているが、条件をそろえて実験計画をすることが難しい場面もある。 ・実験結果をもとに考察をする場面で自分の考えを文章化することが難しいことがある。	・実験や観察、課題に対する調べ学習などに対して、意欲的に取り組んだり、わからないことを進んで質問したりしている。 ・学習した内容を日常生活の様々な現象に結び付けたり、科学的な新たな疑問を発見

		したりすることが難しい。また、疑問やさらに調べたいことが具体的でないことが多い。
--	--	--

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・児童の知識の定着を図るために、実験や観察を中心に、体験的・視覚的に捉えさせる。 ・単元の終わりにプレテストを実施し、知識の定着を確認したり学習内容の確認をしたりする。 ・観察や実験の結果と予想とを比較させ、子どもが自分の考えを見直し、観察や実験の方法を工夫させたりする学習活動を位置づける。	・予想と実験の結果を比較させ、なぜそのような結果になったのか、その理由を考えさせ、説明する力を高める。 ・理科の見方・考え方を働かせるように、主な視点や考え方を児童に提示する。	・ICTを活用して教材や資料を工夫し、児童の興味・関心を引き出しながら授業を行っていく。 ・気づいたことやわかったことをたくさん記述し、一人一人の意見を全体に広めるような指導をする。 ・問題を自分事として捉え、日常生活に当てはめられるようにするために、どのような場面で使われているか考えさせ、日常生活とのつながりを意識させる。

（2）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・昨年度に引き続き、実験や観察をもれなく実施し、体験的な活動を充実させて実験の技能や器具の使い方を定着させる。 ・理科の用語の定着具合を、テストなどを活用して確認し復習的な授業を展開する。	・予想や仮説をもとに、実験方法を考える活動を行い、実験の目的を明確にする。 ・実験の結果をもとにして、根拠をもった考察を表現できるようにする。また、それぞれの児童の考察を点検し、それぞれの児童へのフィードバックを行う。	・単元ごとの導入を充実させ、学習内容に対する意欲を高める。 ・学習内容と関連した日常生活の現象を考えさせたり、教師からの事例の紹介を聞いたりにして、学習内容を単なる知識とせず、身近なものとして捉えさせる。 ・振り返りをする場面で新たな疑問や調べたいことを具定期に記述するように指導する。